

●津山市の子どもの学力の現状

平成19年度から全国の小学6年生と中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されています。津山市でも、この調査を活用して子どもたちの学力・学習状況をきめ細かく把握・分析し、子どもたちの健やかな成長のため「教育のあり方」について考えています。

ポイントは「知識」と「活用」

「全国学力・学習状況調査」では、国語と算数・数学で2種類の問題が出題されています。1つは、身につけておくべき知識・技能を中心とした問題（**知識**）。もう1つは、その知

識・技能を実生活に活用する力や課題解決のための構想を立てて実践する力などを中心とした問題（**活用**）。さらに、子どもたちの学習意欲、学習方法、学習環境、生活などの（**学習状況**）についても調査が行われました。

これらの調査には、学力の重要な要素を包括する問題が出題されています。

津山市の子どもの学力の現状

「あじさいは咲くよさかきつなぐぞま...」
《良いところ》
◎漢字の読み書きの力は比較的定

着しています。しかし、十分とは言えません。さらに努力する必要がある（**知識**）

◎近所の人へのあいさつや地域の行事への参加は良くできています（**学習状況**）

《苦手なところ》

！理由や違いを「書く」ことや考えを「説明する」力（**活用**）
！資料から必要な情報を取り出して読み解く力（**活用**）
！テレビやビデオなどを見る時間が長く、家庭学習の時間、読書の時間が短いところ（**学習状況**）

家庭・地域がそれぞれの役割を果たすとともに、連携して子どもたちにかかわっていくことが大切です。

授業を変える 学校を開く

・基礎的・基本的な学習の着実な定着
・身につけた知識を活用し、表現することができる力の育成
・家庭や地域へ、学校の情報を発信
家庭で育む

・早寝、早起き、朝ごはんなどの基本的生活習慣の定着
・テレビやビデオを見る時間を短くし、家庭学習や読書の時間を増やす

地域が支える

・学校を支えるボランティア（学習・安全・環境）の充実
・郷土の偉人について学習し、誇りを持つ

「確かな学力」を身につけるために

「確かな学力」とは知識や技能だけをいうものではありません。学ぶ意欲や思考力、表現力、問題解決能力など、自分で考え、行動できる力をいいます。その力をつけるためには、学校・

特集

津山の教育

「確かな学力」の向上を目指して

今、国を挙げて教育改革が取り組まれています。全国学力・学習状況調査の実施や、小学校は平成23年度・中学校は平成24年度から始まる新学習指導要領。「今のままだとダメなの？ どう変わっていくの？」と何となく不安に感じている人もいるのではないのでしょうか。
変化の激しいこれからの社会を生きるためには、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力をバランスよく育てることが大切だと考えます。そのため津山市の学校が取り組んでいること、家庭で取り組むべきこと、地域での支援など、津山の教育の取り組みについて紹介します。

●変わる学校

基礎的・基本的な学習内容を子どもたちに着実に習得させるため、学校ではいろいろな工夫をしています。昔から、漢字や計算は繰り返し練習して、身につけてきました。漢字ドリルや計算ドリルはその代表的なものです。最近ではそういった教材

とは別の観点から、子どもたちに学力をつける授業を実施しています。

また、より良い授業ができるよう、校内研究の充実に努め、授業形態、指導方法、発問の仕方など授業スタイルの見直しを行っています。

●少人数指導

《知識の着実な定着のために》

算数・数学・英語などの教科で、学級担任とは別に1人1先生が付き、1つの学級を2つに分けて少人数で指導します。児童生徒一人ひとりに目が行き届き、きめ細やかな指導ができます。

学級の分け方には、無作為に分ける、子どもたちの興味関心によって分ける、習熟度によって分けるなどがあり、授業の目的によって決められます。

●大学教授などを招いての授業改善

《知識の積極的な活用のために》

子どもたちが身につけた知識を積極的に活用し、表現する授業を展開

するためには、先生の指導力の向上が不可欠です。

しかし、教師だけの考えでは限界があるので、大学の教授などを講師として招き、授業について指導を受けたり、先進的な教え方の理論を学んだりしています。

●一貫性のある教育

《小・中の連携を進めるために》

小・中学校では、分かる授業を目指してそれぞれの学校で努力してきましたが、今後は一貫性のある教育を目指し、相互に連携し、協力していくことが必要です。

例えば今後の取り組みとしては、中学校の数学の先生が高い専門性を生かし、小学校の高学年で算数の授業をしたり、中学校の先生が小学校の授業を参観し、きめ細かい指導の研修をしたりすることなどが考えられます。

津山市では、平成23年度の小学校新学習指導要領完全実施に合わせ、来年度から週1時間を目安に、市内全28小学校の5年生と6年生で英語の授業を始めます。「聞く」「話す」

を中心に英語を使ってコミュニケーションすることの楽しさを知り、言語や文化に親しむことが目的で、担任や英語が得意な先生が授業を担当します。また、教育効果を高めるため中学校の英語の先生との連携も重要になってきます。

津山市教育委員会では、このような小・中連携の研究を積極的に進めています。



▲算数の少人数授業（東小学校）



▼大学教授を招いての研究協議（加茂中学校）